

新潟県妙高市 妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会

<http://kouryu-kyoju.net/152170/>

問合せ先

窓口名：妙高市農林課
住所：新潟県妙高市栄町 5-1（妙高市農林課内）
TEL：0255-74-0028 FAX：0255-73-8206
E-mail：norin@city.myoko.niigata.jp

アクセス

最寄りの都市：新潟市
集合場所：国立妙高青少年自然の家
車の場合：100分
鉄道の場合：190分



受入概要

地域の活性化を目指す団体や自然体験活動を推進する団体等が連携し、妙高山麓の地域資源を一体的に捉え、保全・活用し、都市と農村交流の推進によって、農山村地域の活性化を図るため、平成 18 年 2 月に「妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会」が発足した。

「セカンドスクール・越後妙高 暮らしの学校」をコンセプトに、ファーストスクール以上に、安全・安心はもちろんのこと、教育の面でも授業に結びつく効果的な学習プログラムを提供することを強く意識し、事業を行っている。体験活動を、社会や理科、総合的な学習などの授業時数にただ単に振替えるのではなく、その科目の「ねらいに」にせまるモデル単元・指導計画を 3 つに大別し、提供している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

妙高市の人口は約 3 万 8000 人で、新潟県の南西部に位置し、長野県に接している。市域の総面積は 445.52 平方キロメートルで、県土の約 3.5% を占めている。地域全体の約 8 割は森林で、西部には、越後富士と称される秀峰「妙高山」に代表される標高 2,000～2,500 メートルの山岳が峰を連ね、山麓一帯は上信越高原国立公園に指定されている。市域の中央部を貫流し、日本海へと流れ込む関川をはじめ、大小の河川は肥沃な扇状地を形成し、北部には優良農地が広がる。気候は日本海側特有のもので、夏季は高温多湿、冬季は大陸からの季節風により、雪の多い地域だが、降雪による豊かな水と緑豊かな自然環境に恵まれた、色鮮やかな四季の変化に富む美しい地域である。

歴史・文化的な特色

市北西部の丘陵地には、国指定の、北陸最大級の環壕集落跡である「斐太遺跡」や、大規模な「観音平・天神堂古墳群」、武将・上杉謙信の支城「鮫ヶ尾城」など、貴重な史跡が所在している。また、関山神社は古来より修験の場として信仰を集め、木曾義仲や上杉謙信が崇敬したと言われている。奥院・妙高山の里宮。毎年 7 月には、1200 年余の歴史と伝統を誇る「火祭り」が行われ、仮山伏の棒使い演武などが見られる。そのほか岡倉天心六角堂では、日本美術を海外に広く紹介し、美術学校を創設するなど、明治期、美術界で活躍した岡倉天心の山荘跡に、有志によって建てられたものである。室内には天心の胸像が飾られており、外から眺めることができる。

農林水産業の特色

【農業】妙高地域、新井地域南部の中山間地域では、水稻を主体とする農業生産を展開しながら、そば等の生産拡大が図られている。妙高原地域中山間部では、標高 450～750m の傾斜地に耕地があり、水稻をはじめ、小規模ながら花きや露地野菜が生産されている。

【林業】妙高市の森林面積は、約 34,800ha で土地面積の約 78% を占め、民有林約 18,500ha、国有林約 16,300ha で民有林が約 53% を占めている。林家戸数は、約 630 戸であり、そのうち 5ha 未満の山林保有者が約 87% を占める。従来は、広大な林野を対象に製炭が盛んに行われ、農林家では水稻に次ぐ重要な収入源だったが、燃料消費構造の変化により薪炭需要が激減したため、現在はほとんど行われていない。だが、一部では製炭に代わって椎茸、なめこ、うど栽培などが行われている。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	公設の宿泊施設
軒数	22	16	4
最大宿泊可能人数	80	80	400
料金	6000 円-8000 円	6000 円-8000 円	1600 円-9500 円

おすすめ体験学習プログラム

「森」の学校（所要時間 180 分・食の体験）

【期間】

5月下旬～10月下旬まで

【内容】

【野外炊事】

妙高の新鮮野菜や旬の山菜を使った料理、のっぺ汁や山もちなどの郷土料理づくりを野外で行う。

「川」の学校（所要時間 60 分・自然・環境体験）

【期間】

7月中旬～9月下旬まで

【内容】

ニジマスのつかみ取りやカジカ突きなどの川遊び。

「農」の学校（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

9月中旬～10月上旬まで

備考：矢代交流施設運営組合妙高ふるさと体験協議会杉野沢山里体験旅行会

【内容】

昔ながらの手による稲刈りやはさかけと機械によるお米の収穫の見学。



農業体験の様子

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	○	○

おすすめのモデルプラン

プラン名	妙高山麓 暮らしの学校 (秋・4泊5日)	実施時期	9月中旬～10月中旬まで
ねらい	児童が、妙高山麓の特色ある自然を体感し、農作業をはじめとする様々な活動に挑戦するとともに、農家での家族的な異世代交流や集団活動、規則正しい生活を行う。この体験交流活動を通し、農林業（食・環境・協同）の重要性を理解し、自分の生活を反省することで、人や社会とかがわる力＝「生きる力」を育成する。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	①開村式（オリエンテーション） ②妙高アドベンチャー ③星座観察	①生活のきまり、グループ活動における自分の役割、宿泊施設利用ルール、健康状態等の確認。②グループごとに与えられた課題の解決に挑戦。③高性能天体望遠鏡を使ったりして、妙高の星空を観察。
	宿泊	国立妙高青少年自然の家	団体生活の中で生活のきまりをまもって過ごす。
2日目	午前	野菜の収穫	広大な畑で、高原トマトやトウモロコシの収穫。
	午後	①稲刈り ②対面式	①昔ながらの稲の手刈り・束ね・はさかけを体験するほか、昔の農具（トウミ、センバコキ）体験と現代の農業機械による作業の見学。②お世話になる農家（民宿）の方にあいさつ。
	宿泊	農家民宿	笹糎ずしやのっぺい汁などの郷土料理をつくったり、夕食を通して農村の暮らしを聞いたりする。
3日目	午前	森の秘密基地づくり	基地をつくる場所を決め、必要な素材を集める。
	午後	森の秘密基地づくり	木や枝を縄で結んだり、葉っぱをかぶせたりして基地を完成させる。
	宿泊	農家民宿	体験したことを話し合い、家族の団らんを楽しむ。
4日目	午前	①郷土芸能「春駒」体験 ②お別れ会	①地元の子どもたちと共に「春駒」を踊り、友達の輪を広げる。②お世話になった農家の方々にお礼の挨拶をしてお別れ。
	午後	カントリーウォーク	棚田が広がる中山間地域を歩き、自分の住む地域との違いを観察したりする。
	宿泊	国立妙高青少年自然の家	団体生活の中で生活のきまりをまもって過ごす。
5日目	午前	①新聞づくり ②新聞発表会	①仲グループごとによくできた点やできなかった点、一番楽しかったこと、つらかったこと、勉強になったことなどを新聞にする。②つくった新聞を発表しあい、意見交換する。
	午後	閉村式 学校まで移動	体験活動を振り返って、今後の生活の目標を決めたり、決意表明をして学校へ帰る。

新潟県上越市、十日町市 越後田舎体験推進協議会

<http://www.yukidaruma.or.jp/taiken/>

問合せ先

窓口名：財団法人 雪だるま財団
住所：新潟県上越市安塚区安塚 722-3
TEL：025-592-3988 FAX：025-592-3324
E-mail：taiken@yukidaruma.or.jp

アクセス

最寄りの都市：東京
集合場所：体験・宿泊先によって異なります
車の場合：180分
鉄道の場合：180分



受入概要

平成 10 年度に人口あわせて 2 万人足らずの 6 つの町村で、「越後田舎体験推進協議会」は官民一体となり発足した。以後、観光交流による地域振興を目的に受入を行っている。平成 17 年に市町村合併により上越市と十日町市の 2 つの市が誕生し、より広いフィールドと施設・人材の活用・交流でもって、事業を推進している。

『その地域に暮らす人々と、訪れた人々の双方向に感動をもたらすような体験があって初めて、人は高まることができる』ことを受入の基本としている。海、平野、里、山といった豊富な自然に恵まれ、地域素材である自然、農・林・漁業などの営み、あるいは文化が地域の歴史とともに存在している。そしてそこに生きる人々が、すべての体験プログラムにかかわっている。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

上越市は新潟県の南西部、日本海に面し、海岸線には砂丘が続き、湖沼群が点在している。中央部には関川、保倉川などが流れ、流域には高田平野が広がっている。平野を取り囲んで米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地などの山々の連なりも特徴のひとつである。十日町市は上越市の東側に隣接し、長野県との県境、千曲川が信濃川と名前を変えて間もないところに位置する。東側には魚沼丘陵、西側には東頸城丘陵の山々が連なり、中央部には信濃川が南北に流れ、十日町盆地とともに雄大な河岸段丘が形成されている。上越市・十日町市とも、山間部には日本の原風景が残る里山がある。昔からの集落・棚田の景観が残り、ブナ林も点在している。

歴史・文化的な特色

上越市は、春日山城跡、親鸞聖人ゆかりの地、五智国分寺、国指定重要文化財浄興寺、雁木、朝市があり、十日町市では、大地の芸術祭作品、国宝火焰型土器、十日町のきもの、雪祭り発祥の地である。

農林水産業の特色

上越市、十日町とも平野部から山間部に至るまで、稲作地域である。しかし、山間部のいわゆる棚田が耕作放棄されている。米作りのほか、各種野菜・果樹や畜産もあるが相対的には少ない。

林業は地元森林組合が森林を守る作業を行う。上越市の海岸部では漁業が行われている。



宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	ホテル・旅館	公設の宿泊施設
軒数	500	11	29	13
最大宿泊可能人数	1500	230	1952	921
料金	5600 円-	6300 円-	6300 円-	6300 円-

おすすめ体験学習プログラム

魚のさばき体験（所要時間 150 分・漁業体験）

【期間】

4月下旬～10月下旬まで

【内容】

【野外炊事】

取れたての魚を使って、魚をさばく体験。さばいたものは
浜汁・刺身・焼き魚等にして食べる。また昔と今の海・浜
の違い、取れる魚のこと、漂着するものなどの説明も
きき、理解を深める。

米作り（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

5月中旬～6月上旬まで

6月上旬～8月下旬まで

9月中旬～10月上旬まで

【内容】

稲作で生計を立ててきた農家の米作りを体験します。（田
植え・草とり・稲刈りなど）

雪国体験（所要時間 120 分・ふるさと体験）

【期間】

12月下旬～3月下旬まで

【内容】

雪国ならではの雪かき、かんじきでの道つけ、かまくら・
雪像づくりなど、今と昔の雪国の暮らしの違い、雪国なら
ではの知恵・工夫、雪での遊びなどについて話しを聞き、
雪国のつらさと楽しみを味わう。



山菜採り体験（所要時間 150 分・自然・環境体験）

【期間】

4月下旬～6月中旬まで

【内容】

山の恵み山菜を採りに行きます。食材の説明、昔の食べ物
の話、暮らしの中の食の考え方などの説明を聞きながら下
ごしらえし、てんぷら等で試食する。

受入時の安全対策

学校関係者向けガ イドライン作成	受入地域内関係者の ガイドライン作成	他安全対策資料用 意
○	-	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	米作りと農村体験	実施時期
		5月中旬～6月上旬まで 6月下旬～8月下旬まで 9月中旬～10月下旬まで
ねらい	学校では見ること、聞くこと、体験できないことを体全体で感じ、自然と自然のつながりや、自然と人とのつ ながり、そして人と人とのつながりで人は生きている、生かされていることを感じる。	

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	移動	
	午後	地域・まちづくり探検	地域を見学し、お話を聞く。歴史資料館見学、村の様子を見 学（田んぼ・森林・住まいなど）
2日目	宿泊	民宿・旅館・ホテル・ペンション・ 公共の宿など	団体生活を経験し、規則正しい生活を過ごす。
	午前	田植え体験（草かりなど、稲刈り）	裸足で手植えの田植えを体験。（草刈り、稲刈りなど米作りの ための体験作業）
	午後	食材探し	3日目の食体験の食材を調達。（例：野菜・山菜・加工品等）
3日目	宿泊	民宿・旅館・ホテル・ペンション・ 公共の宿など	夕食後、今までの体験の感想を語り合う。
	午前	食体験	地元のお母さんたちが指導してのそば打ち・だんご・笹寿司 など郷土料理を作る。
	午後	昔遊び体験	昔の遊び道具を作り、遊ぶ。
4日目	宿泊	民泊（ホームステイ）	地域の暮らしについて話を聞き、質問をする。
	午前	農村生活体験（民泊先）	各民家に分かれてそれぞれの体験をする。
	午後	農村生活体験（民泊先）	各民家に分かれてそれぞれの体験をする。
5日目	宿泊	民泊（ホームステイ）	1日の出来事・感想を語り合う。
	午前	お別れ会	受入関係者に向けたお別れ会（歌）
	午後	移動	体験活動を振り返って、今後の生活の目標を決めたり、決意 表明をして学校へ帰る。

新潟県佐渡市 佐渡地区農山漁村体験推進

<http://www.sado.co.jp/shiodu/default.htm>

問合せ先

窓口名：佐渡市産業観光部観光課
住所：新潟県佐渡市千種 232
TEL：0259-63-5116 FAX：0259-63-51
E-mail：s-gasyuku@city.sado.niigata.jp

アクセス

最寄りの都市：東京都
集合場所：佐渡市背合 3 8 ふれあいハウス
車の場合：330 分
鉄道の場合：270 分



受入概要

「佐渡地区農山漁村体験推進協議会」は、個々の学校課題に応じた教育旅行を、事前・事後の学習まで含めて、ワンストップサービスで提供するため、トキが再び大空を舞った平成 20 年に結成された。

体験を中心に、子どもたちの目的にあった企画やメニュー作りをしており、選択コースの作成をして各民宿の特徴を生かした体験メニューに取り組んでいる。ありのままの自然・生活・文化などを学べるのが特徴である。

また、その他の体験施設や地域農家、漁村集落との連帯を図り、受入の体制作りと協力体制の確立に努めている。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

佐渡島の面積は約 855k m²。東京 23 区のおよそ 1.5 倍で、離島では日本一大きな島である。季節がはっきりとした地域であり、日本の縮図とも言われる。気候は、対馬暖流の影響で、新潟本土と比べ暖かく、雪も少ない。植物分布は、寒暖両系が見られ、北限、南限種も多い。

また、佐渡島は日本産トキ最後の生息地であり、国内で唯一トキを公開している島である。環境にやさしい農業をはじめ、トキが住みやすい環境づくりに向けた様々な取組が行われている。屋久島・立山と並ぶほどの樹齢 600 年以上といわれる杉の自然林が数万本単位で残されていることでも有名である。

歴史・文化的な特色

古くから流人（貴族）が訪れていたことによる貴族文化、金山の発展により持ち込まれた武家文化、商人たちが運んだ町人文化の三つの形があり、これらが混然一体となり独特の文化を形成している。佐渡の文化に大きな影響を及ぼした佐渡金銀山（近世には世界でも有数の金銀鉱山）では、江戸幕府の財政を支えた 400 年にわたる鉱山文化の豊富な史跡、資料等が現存されている。また、佐渡は能楽が盛んな島で、30 あまりの能舞台（国内の約 3 分の 1）を有する。鬼太鼓や文弥人形などの郷土芸能も今に息づいている。

農林水産業の特色

【農業】水稲を主体とした経営形態で、地域性を生かし、国中平野では稲作、南佐渡では柿、葉たばこ、その他の海岸段丘では稲作と肉用牛による経営が営まれている。野菜などの青果物の島内自給率は 10%程度と低く、島内自給率の向上が課題となっている。農業従事者の高齢化が進んでおり、農家の減少や深刻な担い手不足が懸念されている。

【林業】佐渡島の 80%以上を占める森林（山林、雑種林）は、島の保全や水資源のかん養など、多様な役割を果たしている。木材価格の低迷や生産コストの増大による採算性の悪化などにより、手入れの行き届かない森林が増加している。地元材の生産、加工、流通体制の整備の遅れから地元材の利用が遅れている。

【漁業】島外出荷による鮮度低下と輸送コストが原因し、島内水産物生産量のうち、島内消費に出回る量は少ない。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	公設の宿泊施設
軒数	3	5	3
最大宿泊可能人数	28	200	160
料金	5600 円-	6850 円-	6850 円-

おすすめ体験学習プログラム

トキの餌場を守る農業体験（所要時間 180 分・農業体験）

【期間】

5月下旬 ～ 10月上旬まで

【内容】

【野外炊事】

トキの野生復帰のため、環境にやさしい農業を実践している地元農家の人たちと一緒に田植え、草取り、稲刈り等（季節により作業内容が異なります。）を行う。作業後には、無農薬栽培で収穫した「トキ米」でおにぎりを作って食べる「おにぎり体験」等もできる。

海の体験活動（所要時間 180 分・自然・環境体験）

【期間】

7月中旬 ～ 8月下旬まで

【内容】

長浜海岸は遠浅で生き物が多く生息している。海岸を探索しながら生き物調べや海の中のをぞいたり、魚とのふれあいをする。

太鼓体験（所要時間 90 分・ふるさと体験）

【期間】

通年

【内容】

佐渡産材に囲まれた施設で、佐渡に拠点を置く、世界的な太鼓集団「鼓童」のスタッフが、指導する。全身を使って表現することの気持ち良さを、思いっきり感じるができる。

籐かごづくり体験（所要時間 120 分・クラフト体験）

【期間】

通年

【内容】

「籐」は、ヤシ科に属するツル状の植物で水にぬらすと柔らかくなる。籐のツルを編んで籐かごを作る。



受入時の安全対策

学校関係者向け イドライン作成	受入地域内関係者の ガイドライン作成	他安全対策資料用 意
-	-	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	トキの島佐渡の環境学習と 漁業体験プラン	実施時期	5月上旬 ～ 10月中旬まで
ねらい	地球温暖化の影響、生物多様性の危機、食料問題、エネルギー問題など世界的な課題は、佐渡というひとつの島をみつめることでも感じられることから、すべての体験活動を環境教育に特化させ、日々エコ・アイランドの実現に取り組んでいる島の様子を肌で実感してもらい、子ども達に環境について考えさせる。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1 日目	午前	移動	船内で気象学、ロープワーク、船の構造を学ぶ。
	午後	佐渡の地形や自然環境を学ぶ	日本の地形、佐渡の地形を学ぶ。トキの自然放鳥にむけた取組や環境についてふれる。
	宿泊	体験民宿登録施設（相川地区、国仲地区、南部地区）	おけさ体験教室又は鬼太鼓の体験教室。規則正しい生活を過ごす。
2 日目	午前	トキを知る	トキの保護の歴史と生態について学ぶ。
	午後	トキの野生復帰を応援	ビオトープ作りと生き物調べ。トキを守る人たちとのふれあい。
3 日目	宿泊	体験民宿登録施設（相川地区、国中地区）又はその他宿泊施設	「無名異」と呼ばれる金山から採れた赤い土（二酸化鉄）を使った無名異焼きのろくろ体験。古着を裂いて織る、リサイクル商品としての裂き織り体験。
	午前	佐渡の歴史、文化を学ぶ	早朝の地引網体験。イカー一夜干し、たらい舟、磯釣り、海岸散策。
	午後	陶芸、裂き折り体験	昔の遊び道具を作り、遊ぶ。
4 日目	宿泊	体験民宿登録施設（相川地区）	佐渡の食材を使った夕食調理体験。規則正しい生活を過ごす。
	午前	漁師体験	各民家に分かれてそれぞれの体験をする。
5 日目	午後	鼓童とワークショップ	世界的に知られる鼓童のスタッフによるワークショップの実施。鼓童村の森林を歩き自然学を学ぶ。
	宿泊	体験民宿登録施設（南部地区）又はその他宿泊施設	木羽はがき作成。農林漁家へのお礼の方法と検討。規則正しい生活を過ごす。
	午前	砂金取り体験	砂金と砂鉄の比重差を利用して砂金を採る原理を体験。
	午後	解散	船内で宿泊体験のまとめを行う。

新潟県魚沼市 うおぬま体験交流推進協議会

問合せ先

窓口名：財団法人 魚沼市地域づくり振興公社
住所：新潟県魚沼市穴沢 215-1 魚沼市役所入広瀬庁舎内
TEL：025-798-4566 FAX：025-796-2775
E-mail：info@pub.city.uonuma.niigata.jp

アクセス

最寄りの都市：東京都区内
集合場所：道の駅「深雪の里」
車の場合：180分
鉄道の場合：120分



受入概要

子ども農山漁村交流プロジェクトを始めとする長期宿泊体験活動など、魚沼市における様々な体験交流事業の受入を地域連帯して行うために、平成 21 年 3 月に「うおぬま体験交流推進協議会」が発足した。

魚沼市のかげがえのない財産である豊かな自然との触れ合いを通して、子どもたちから環境保全、自然保護への理解を深めてもらい、エコの心を育てていくことを目標としている。スキー、スノーシュー、かまくら・雪像作りなどの雪国体験、可憐な花々に出会う尾瀬ハイキング、魚沼産コシヒカリの田植え・稲刈り、炭焼き、築 210 年の豪農の館で昔話を聞くなど様々な体験メニューを提供している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

魚沼市は、新潟県の南東部に位置し、福島県と群馬県の県境に接している。総面積は 946.93 平方キロメートル、森林・田畑がその 90% を占める自然豊かな町である。鮎・ウグイ（ハヤ）・カジカなど数多くの魚が生息する魚野川、その支流である破間川（あぶるまがわ）、佐梨川、羽根川などの清流にはぐくまれた肥沃な大地に沿って集落が発達した。魚沼から行く尾瀬ルートは、ダム開発時代の面影を残す 19 本ものトンネルが連続する道路、奥只見湖の遊覧船、樹海を走るバスへと乗り継ぎ、最後の徒歩区間は約 1 時間。高低差も少なく歩きやすい沼山峠を越えると、目の前に美しい湿原と尾瀬沼が現れる。

また、大量に降り積もる雪は豊富な水資源となり山菜や農産物などの豊かな実りをもたらし、清流を育む。スキー、スノーシュー、雪合戦、雪灯籠・かまくら作り等雪国ならではの体験はもちろん、夏に訪れても、雪国で暮らす人々の工夫が随所に見られ、「特色ある地域の学習」に最適である。

歴史・文化的な特色

国指定重要文化財の目黒邸は、築 210 年の豪農の館である。桁行 16 間、梁間 6 間という豪壮な作りで、創建当時の姿を残している。隣接する資料館、民俗文化財館は豪農の歴史を語る資料や、かつての農村集落の生活用具、農耕具等を展示。囲炉裏端で昔話を聞いたり、座禅を組むことも可能。

農林水産業の特色

豊かな自然と雪に育まれた魚沼市は、魚沼産コシヒカリに代表される日本有数の良質米の産地として全国的にその名を知られる。またゴリの産地としても全国屈指の生産出荷額を誇っている。平成 18 年の調べでは年間 91 億の農業産出額のうち 61% が米、15% が花きで占められている。

85% の面積を占める森林を守る林業も盛んで、地域毎に営林署や森林組合が森林整備をしている。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	農林漁家以外の民宿	ホテル・旅館	公設の宿泊施設
軒数	20	20	-	48	2
最大宿泊可能人数	-	600	-	3000	250
料金	500 円-800 円	4500 円-9000 円	4500 円-9000 円	4500 円-9000 円	5000 円-

おすすめ体験学習プログラム

田植え、稲刈り（所要時間 180 分・農業体験）

【期間】

5月中旬～6月上旬まで

9月中旬～10月上旬まで

【内容】

【野外炊事】

魚沼産コシヒカリの産地で、田植え、稲刈りに関する一連の農作業を体験する。

尾瀬ハイキング（所要時間 540 分・スポーツ・レジャー体験）

【期間】

6月下旬～10月中旬まで

【内容】

魚沼市は尾瀬に向う新潟県側の玄関口。日帰りでネイチャーガイドと一緒に国立公園の尾瀬ハイキングを体験する。

鮭一括採捕場見学（所要時間 120 分・漁業体験）

【期間】

10月上旬～10月下旬まで

【内容】

地元の清流 魚野川には2ヶ所の鮭一括採捕場（小出と塩沢）がある。鮭一括採捕場で捕獲、受精などを見学する。

郷土料理体験（所要時間 120 分・食の体験）

【期間】

通年

【内容】

地元で採れる山菜や野菜などを使って実際に調理、食べる体験

（けんちん汁、豆腐づくり、こんにゃくづくり など）

天体・星座観察（所要時間 120 分・自然・環境体験）

【期間】

5月上旬～11月中旬まで

【内容】

県内には3ヶ所にしかない本格的な天文施設、須原スキー場山頂にある星の家で専門オペレータによる須原スキー場山頂の天体観測ドーム星の家で400mm反射式望遠鏡を使い天体・星座の観察をする。また、他の場所でのスライド映写、星座観察指導も可能である。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	○	○

おすすめのモデルプラン

プラン名	魚沼の文化・自然に触れる	実施時期	5月中旬～11月上旬まで
ねらい	魚沼での様々な農山村生活の体験をするなかで、雪国独特の文化や自然を感じる。また、日常の生活や身近な地域と比較することで、自分自身の生活をふりかえるきっかけにする。また、農林漁家民宿での家庭的な異世代交流、集団活動や規則正しい生活を行うことで、様々な状況・立場をわきまえて行動できる「生きる力」を培う。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	入村式 ムラナカ探検	挨拶・自己紹介。宿泊する地域を歩いて、地域に根ざしている「雪国ならではの生活の工夫」を探す。
2日目	宿泊	農林漁家民宿	農林漁家の方と歓迎会を兼ねた夕食。
	午前	農作業体験	季節に応じて、田植え・稲刈り・野菜収穫など。
3日目	午後	食文化体験	郷土食づくり（そば打ち、ちまきづくり、笹団子づくり、豆腐づくりなど）
	宿泊	農林漁家民宿	ムラナカ探検、農作業体験、食文化体験のまとめ。
4日目	午前	浅草岳登山または下権現堂山登山	浅草岳登山、下権現堂山
	午後	浅草岳登山または下権現堂山登山	浅草岳登山、下権現堂山
5日目	宿泊	農林漁家民宿	星空観察（星の話を聞く）
	午前	エコミュージアム自然観察	ガイドウォーク。園内で生息する動植物の観察。館内の展示資料や映像を通じた自然学習。
6日目	午後	自然素材クラフト（フォトスタンドづくり）	自然素材を使ったフォトスタンドの飾り付け。
	宿泊	農林漁家民宿	農林漁家民宿の方に渡す記念の色紙等を作成する。
7日目	午前	農林漁家とお別れ 宿泊体験活動のまとめ	農林漁家民宿の方とお別れ会。記念の色紙等を渡す。この宿泊体験で感じたことを保護者宛に手紙で書く。
	午後	学校まで移動	

新潟県胎内市 胎内型ツーリズム推進協議会

<http://tainai301.seesaa.net/>

問合せ先

窓口名：たいない型体験学習・教育旅行誘致推進チーム
住所：新潟県胎内市夏井 1191-1
TEL：0254-48-3321 FAX：0254-48-3323
E-mail：koryu@city.tainai.lg.jp

アクセス

最寄りの都市：新潟市
集合場所：胎内アウレツ館
車の場合：45分
鉄道の場合：60分



受入概要

「胎内型ツーリズム推進協議会」は、胎内市の地域資源を最大限活用し、地域住民のコンセンサスのもとで取り組むことを念頭に、こころのふれあい等人的交流の面を重視した「歓交」を推進するため平成 19 年 6 月 10 日に設立された。「子どもたちの笑顔が地域を元気にする」「地域文化の花を咲かす子どもたちの笑顔」などのキャッチフレーズをかかげ、窓口の一本化、プランのコーディネート、エスコートを行い、継続的な取り組みを目指している。平成 20 年度からは、たいない型体験学習と名づけ、市内の児童生徒が胎内市全域をフィールドとし、人とのかかわり、自然、歴史、文化、スポーツを存分に味わうことのできる教育効果の高いプランを検討・実施している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

胎内市は、新潟県の北東部に位置し、県都・新潟市から約 40km、東には飯豊連峰が、西には日本海が広がっている。飯豊連峰を源とする母なる川「胎内川」を中心に市域が形成されており、上流部は四季折々の渓谷美に彩られるほか良質米を生み出す棚田、扇状地には緑の優良農地、海岸線には河口を中心とした 15 km にも及ぶ砂丘畑と松林が広がる。チューリップフェスティバル（4 月下旬～5 月上旬）、黒川燃水祭（7 月上旬）、胎内星まつり（8 月下旬）などイベントも数多く行われています。

磐梯朝日国立公園及び二王子県立自然公園の区域内であり、飯豊山の登り口となる奥胎内ヒュッテは、広大な原始林に包まれ野生動物多く、バーダー憧れの鳥「アカショウビン」を求める愛鳥家が集い、日本一小さな山脈「櫛形山脈」や新潟県ブナ林 100 選（奥胎内、蔵王権現・高坪山、櫛形山脈）、新潟県森林浴 100 選（胎内平、奥胎内、高坪山、鳥坂山）にある豊かな自然が魅力となっている。

歴史・文化的な特色

今昔物語にも登場する新潟屈指の古刹「乙宝寺（三重塔附棟札一枚）」、中世東国荘園の実態を具体的にうかがうことのできる貴重な資料である「奥山荘波月条絵図並びに付帯文書 3 書」や荘厳なる中世荘園奥山荘の城館群「奥山荘城館遺跡」は国指定文化財であり、市指定無形民俗文化財である「坂井の神楽舞」「鍬江の神楽舞」「築地の獅子舞」など次世代につなぐべき文化伝承を進めている。また、市営施設である「胎内自然天文館」「胎内昆虫の家」「胎内クレーストーン博士の館」などは、子どもたちが好奇心を持って意欲的に学べる場として、専門職員を配置している。

農林水産業の特色

【農業】飯豊連峰を源とする胎内川が市内中心部を貫流し、中山間地の棚田、平野部のほ場整備田と扇状地が広がり、胎内川河口を中心とした 15 km の海岸砂丘地は県北の園芸産地である。米・にんじん・ねぎ・チューリップ球根(日本一)、葉たばこ・畜産などが盛ん。

【林業】森林面積は 16,183 h a で、うち国有林 10,819 h a (66.8%)、私有林が 4,842 h a (29.9%)を占めている。磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園があり、昭和 47 年に全国植樹祭が開催されたが経営体は皆無に等しい。

【漁業】胎内川漁協ではあゆや鮭の放流に力を傾注しており、新潟漁協北蒲原支部では日本海による刺網漁業でイワシ・カニ・キスなどを漁獲している。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	公設の宿泊施設
軒数	40	1
最大宿泊可能人数	160	274
料金	5200 円-	4500 円-73500 円

おすすめ体験学習プログラム

日本最古の油田散策（所要時間 90 分・ふるさと体験）

【期間】

4月～11月まで

【内容】

【野外炊事】

天智天皇に献上したといわれている日本最古の油田。実際にカグマという草で採油する。公園内には油井戸が点在している。

やわ肌ねぎ収穫体験（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

7月～12月まで

【内容】

ねぎ・にんじんの野菜指定産地など野菜栽培が盛んな当市で、地域ブランド「やわ肌ねぎ」の収穫を体験する。



ヤギの乳しぼり

星空観察（所要時間 90 分・自然・環境体験）

【期間】

4月～11月まで

【内容】

胎内自然天文館にある県内最大級の 60 センチ反射望遠鏡や双眼鏡で星空を観察。澄んだ空気と星空の不思議を感じつつ、大気汚染などの環境問題の気づきを育む。

ヤギさんの乳しぼり体験（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

4月～12月まで

【内容】

動物の暖かさに触れ、「いのち」の大切さが体感できる。また、畜産作業を通して、感謝の心をはぐくむ。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
○	○	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	胎内市でどっぶり体験プラン ～地域のよさ発見！自分のよさ発見！～	実施時期	4月～10月まで
ねらい	児童が、胎内市の自然や文化、社会条件を活用する体験活動を通して、農村の持つ魅力や意義、素晴らしさを発見することにより“地域を愛する心”及び“感謝する心”を培う。また、意志・意欲を持って体験活動に取り組む児童の言葉を大切に、体験活動から生まれる新しい様々な気づきはぐくむことにより“生きる力”を培う。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	開校式 胎内市の農業紹介	挨拶・自己紹介、当該地域に関する情報交換。胎内市の農業についてプロジェクターを使って説明。
	午後 宿泊	農林漁家の生活体験（班別行動） 農林漁家民泊	対面式：各農林漁家泊先と対面し自己紹介をする。 夕食づくりの機会、団らんの機会を提供。
2日目	午前	米粉クッキング（ピザ・クレープ）	当該地域のお米・米粉に関することや食料自給率、地産地消などを、プロジェクターを使って説明（工場見学）。
	午後 宿泊	やわ肌ねぎ収穫体験 日本最古の油田散策 農林漁家民泊	当該地域の砂丘地園芸や食の生産現場でやわ肌ねぎ収穫体験を行う。日本最古の油田といわれる油坪や油井戸を散策する。 朝食・片付け・清掃活動・農林漁家への御礼・お別れ。班別に農林漁家泊や共通体験での学習の成果のとりまとめ。
	午前	農林漁家とのお別れ 前日までの体験まとめ	夕食づくりの機会、だんらんの機会を提供。
3日目	午後 宿泊	課題別選択体験、課題別船体経験 まとめ 星空観察 公的宿泊施設	産業コース：胎内畜産団地において、牛・ヤギ・豚の世話やエサやりを体験 食コース：笹だんごの作り方を解説・笹採りを体験 自然コース：実際に網を持って昆虫採集 団体生活を経験し、規則正しい生活を過ごす。
	午前	課題別選択体験	産業コース：ヤギの搾乳を体験 食コース：笹だんごづくりを体験 自然コース：森の中でネイチャーゲームやどんぐりを拾い、ストラップづくりを体験
	午後 宿泊	課題別選択体験まとめ キャンドルファイヤー 公的宿泊施設	班別に課題別選択体験での学習の成果のとりまとめを行う。 キャンドルをみつめ感謝の心を表わす。 団体生活を経験し、規則正しい生活を過ごす。
5日目	午前	清掃点検 野外炊さん	片付け・清掃活動。共同でトン汁づくり体験。
	午後	閉校式 学校までの移動	お別れ挨拶、感謝の言葉。

新潟県阿賀町 奥阿賀グリーン・ツーリズム推進協議会

<http://www.okuaga.jp>

問合せ先

窓口名：NPO にいがた奥阿賀ネットワーク
住所：新潟県阿賀町津川 811 番地
TEL：0254-94-1330 FAX：0254-94-1122
E-mail：info@okuaga.jp

アクセス

最寄りの都市：新潟市
集合場所：阿賀町公民館又は津川・上川・三川 B&G
海洋センター
車の場合：45 分
鉄道の場合：120 分



受入概要

これまで「奥阿賀体験教育旅行」及び「グリーン・ツーリズム」事業を実施してきた NPO 法人が中心となり、新潟県、阿賀町、J A、観光協会等の地域の受入関係者を構成員に、行政との協働による「官民連携型」の協議会として、「奥阿賀グリーン・ツーリズム推進協議会」を立ち上げた。

学校の教育目標や学習内容等の要望に合せたプログラム作りを支援し、生徒の体験だけでなく、教師にも体験できるプログラムを用意している点が特徴である。特に、冬季間の奥阿賀の雪国体験や小正月行事等の地域色豊かな体験プログラムを提案している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

阿賀町は、新潟県と福島県の県境に位置する。新潟県と福島県を結び、JR「磐越西線」、や「磐越自動車道」「国道49号線」が走る地域で、東京から新潟まで、約4時間程度で訪れることができる。

阿賀町は、町の中央を大河阿賀野川が貫流し、面積は新潟県で第3位の広大な面積を誇り、総面積の9割以上を森林が占める山間の地域である。町には阿賀野川に流れ込む、数多くの支流があり、その「山と川」が織り成す、田舎の原風景が今に残されている。特に「国道49号線」と並行し蛇行する「阿賀野川ライン」の景色は、中国の桂林を偲ばせる全国でも屈指の名勝地となっている。

歴史・文化的な特色

会津と越後のはざまに位置し、平安時代より700年あまりにわたって会津に属していた東蒲原郡・阿賀町は、個性ある独特の歴史・文化を培ってきた。また、豊かな恵みをもたらしながら時に牙をむく大自然の風土は、東蒲原独自の風俗や習慣を育んだ。

現在、阿賀町では、国指定7(建造物3、史跡2、天然記念物2)、特別天然記念物(カモシカ1)、県指定9(建造物1、彫刻2、工芸品1、工芸技術1、風俗慣習1、史跡1、天然記念物2)、町指定55(建造物2、絵画2、彫刻20、工芸品2、古文書1、民俗芸能1、有形民俗1、史跡9、名勝1、天然記念物16)の総計72件の文化財がある。

農林水産業の特色

阿賀町の農業は、総面積95,000haのうち田の面積が1,200haで7.9%、畑の面積が820haで0.8%、市場には流通しない米や野菜が多く、地産地消を心がける町でもある。

農林漁業(第一次産業)の就業者数は人口の9.8%、約700人が従事し、農家人口は、約6,000人と減少傾向にはあるが、新しい産業の創出にも町をあげて力を入れ取り組んでいる。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	公設の宿泊施設	農林漁家以外の民宿
軒数	130	10	5	16
最大宿泊可能人数	200	68	322	1233
料金	4300円～	6300円～	7140円～	6953円～

おすすめ体験学習プログラム

日本一のコシヒカリ田植え体験（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

5月上旬～6月上旬まで。

【内容】

学校田を用意し、手植えによるコシヒカリの苗の田植え体験を行う。

奥阿賀流 和カンジキ作り（所要時間 150 分・ふるさと体験）

【期間】

12月下旬～2月下旬まで。

【内容】

雪の上を歩くために作られてきたカンジキを作る。雪国では欠かせない生活用具だが、地域によって作り方は様々。

阿賀野川ラフティング（所要時間 180 分・スポーツ・レジャー体験）

【期間】

6月上旬～9月下旬まで。

備考：5月、10月は要相談

【内容】

ラフティングボート（ゴムボート）で阿賀野川を下る。みんなで息を合せて漕ぐことで初めてボートは真っ直ぐ進む。協力することの大切さを学べるプログラム。

冬の奥阿賀 雪降ろし体験（所要時間 150 分・ふるさと体験）

【期間】

1月上旬～2月下旬まで。

備考：※雪の関係で実施不可

【内容】

屋根の雪おろしは冬の重労働。その大変さから、田舎暮らしの助け合いや、人の温かさを冬の奥阿賀で学ぶ。



雪国体験

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	-	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	新潟・冬のあったか学習	実施時期	1月上旬～2月下旬まで
ねらい	新潟の文化、伝統、生活を「冬の生活」から学び、雪国体験をチャレンジしてみる。対外的適応能力をこのプランから学び「生きる力」を育む。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	開校式・スポーツ・レジャー体験（雪見舟 or 奥阿賀遊覧船）	開校式：当地域を訪れた最初の式・挨拶等。阿賀野川を舟に乗って遊覧し、阿賀野川の歴史や文化を学ぶ。
	宿泊	公的宿泊施設、民間宿泊施設から選択可能	
2日目	午前	食の体験、クラフト体験より「生徒」が選択	生徒の「個々」の「能力」を伸ばすため、「選択希望制」で体験を決める。
	午後	ふるさと体験（奥阿賀流 和かんじき作り）	一人一人「かんじき(両足分)」を作り、3日目のホームステイ先で、自分で作った「かんじき」で雪道を歩いてみる。
	宿泊	公的宿泊施設、民間宿泊施設から選択可能	
3日目	午前	農林漁家民泊での生活体験(班別行動)または「かんじき」でスノートレッキング	対面式：農林漁家民泊先と対面し、自己紹介する。スノートレッキングの場合は、昼前又は昼後に対面式→農村生活体験になる。
	午後	農林漁家民泊での生活体験(班別行動)	対面式：農林漁家民泊先と対面し、自己紹介する。各農林漁家民泊先で、農林漁家の生活を体験する。
	宿泊	農林漁家民泊	1日の感想等の語り合い。
4日目	午前	農林漁家民泊での生活体験(班別行動)	農林漁家での生活体験。昼食は民泊先の方と一緒に郷土料理体験。
	午後	農林漁家民泊での生活体験(班別行動)	農林漁家での生活体験、夕食づくり体験。
	宿泊	農林漁家民泊	1日の感想等の語り合い。
5日目	午前	農林漁家民泊での生活体験(班別行動)	農林漁家での生活体験。
	午後	学校まで移動	お別れ及び閉校式：農林漁家民宿とお別れ会

富山県氷見市 氷見市宿泊体験推進協議会

<http://www.kitokitohimi.com/>

問合せ先

窓口名：社団法人氷見市観光協会
住所：富山県氷見市伊勢大町 1-12-18
TEL：0766-74-5250 FAX：0766-74-5453
E-mail：himikan@bz01.plala.or.jp

アクセス

最寄りの都市：富山市
集合場所：氷見漁港（駐車場）
車の場合：60分



受入概要

市全域において、農・林・漁業等の各種体験活動など、魅力にあふれた市の地域資源を活かす宿泊体験学習を実施し、地域の活性化につながるよう、本プロジェクトの趣旨に則り、観光協会、商工会議所、各種体験団体及び行政等の関係機関が連携し、「氷見市宿泊体験推進協議会」を平成 22 年 3 月に設立。氷見市地域の自然や産業、文化といった地域資源を活かした“学習効果のあるプログラム”と、“安全・安心な受入”を提供することを方針として取り組むこととし、これらの実現のために、地域内の農林漁家や体験指導者を対象に人材育成を実施し、個々の児童に対してきめ細やかな配慮と家庭的な交流を提供している。中でも体験プログラムにおいては、山から海までのコンパクトな地形を活かし、多種多様な体験メニューを有している。



受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

氷見市は、能登半島の東側基部、富山県の北西部に位置する。東は、有磯海と呼ばれる富山湾に面し、西から北にかけては、宝達山（標高 637m）から石動山を経て富山湾へと続く宝達丘陵を県境として石川県に接し、南は、100m前後の丘陵が連なる二上丘陵を市境として高岡市と接している。本地域は、丘陵地が地域全体の約 60%を占め、海岸部からこの丘陵地へ向かって 5 つの大きな谷が伸びている。このように、氷見市は、北・西・南の三方を丘陵山脈に囲まれ、東は富山湾に面しているなど、地形的に独立しており、海と山がコンパクトにまとまった（東西 18.25 km、南北 21.65 km、周囲 92.6 km、総面積 230.47 km²）ユニークな地域である。

南北にのびる海岸線と 5 つの谷からなる海と山がコンパクトにまとまった特異な地形は、里山から海までがたがいに機能する共存・循環型自然環境をつくり出しており、動植物の楽園となっている。また、日本海側有数の氷見漁港には、四季を通じて 156 種類もの魚が水揚げされ、初夏の「マグロ」、冬の「寒ブリ」、そして「氷見いわし」は有名である。一方、丘陵部には棚田が広がり、その下方に富山湾、その海越に 3,000m級の雄大な立山連峰が屏風のようにそびえている。

歴史・文化的な特色

氷見地域は、古くは日本ではじめて発見された洞窟住居跡「大境洞窟」から始まり、柳田布尾山古墳、万葉の歌人大伴家持ゆかりの史跡など、歴史の中に息づいてきた。長い年月の中で築かれてきた文化は、氷見の自然環境と密接に関わっている。例えば、獅子舞は全国的にも類をみないほど盛んであり、110 箇所以上もの町村で行われている。また、越中式定置網は、日本国内への普及だけでなく、近年は環境に優しい漁法であるとして、「世界定置網サミット in 氷見」の開催を機に、コスタリカやタイなど様々な国から研修生を受け入れている。

農林水産業の特色

氷見地域では、越中式定置網で氷見を代表する「マグロ」「寒ブリ」「氷見イワシ」など、四季折々の多種多様な魚介類を水揚げするだけでなく、干物や練かまぼこに加工する水産加工業も盛んである。また、里山では、水田農業に加え、白ねぎ、ハトムギ、タケノコ、ジネンジョ、梅など多種多様な農作物が栽培されている。これらの農産物を使用し、ジャム、せんべい、パンなどの加工品の生産も行っている。

地域で消すものは地域で産する「地消地産」運動に取り組んでいるのも、氷見市の大きな特徴の一つである。



宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	ホテル・旅館
軒数	43	3
最大宿泊可能人数	1500	660
料金	6300 円～8400 円	7350 円～

おすすめ体験学習プログラム

間伐・枝打ち体験（所要時間 180 分・林業体験）

【期間】

5月～10月まで。

【内容】

八代地域の里山に入り、間伐・枝打ち体験を行う。併せて、森林資源の働きや自然災害の防止の必要性を学ぶ。



定置網漁業見学（所要時間 120 分・漁業体験）

【期間】

5月～10月まで。

【内容】

定置網漁法とは、網を海中に常設しておき、回遊魚を待つて漁獲する自然に優しい漁法であり、富山湾で400年前から営まれている。この定置網漁法を観光船に乗り、見学する。



魚さばき／干物づくり体験（所要時間 180 分・食の体験）

【期間】

5月～6月まで。

9月～12月まで。

【内容】

氷見で捕れた魚を使って、魚の干物を作る。

磯の生物観察（所要時間 180 分・自然・環境体験）

【期間】

5月～10月まで。

【内容】

遊覧船に乗船し、虻ヶ島に上陸して、磯に住むウニやヒトデなどの生物、浜辺の植物や海藻を観察する。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
○	-	○

おすすめのモデルプラン

プラン名	ひみ地域の農山漁村交流・体感プログラム：農・林・漁、全てを体験しよう	実施時期	5月上旬～6月下旬まで
ねらい	児童が、ひみ地域の特色ある自然・農林漁業を体感し、チャレンジするとともに、農林漁家民宿での家族的な異世代交流、集団活動や規則正しい生活を行うことで、様々な状況・立場をわきまえた人間らしく判断して、行動していける“生きる力”を培うこと。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	入村式	オリエンテーション（当該地域に関する情報交換）。民宿ごとにわかれての挨拶・自己紹介、民宿との交流体験。
2日目	宿泊	農林漁家民宿	民宿でのお話。（団体生活を経験し、規則正しい生活を過ごす）
	午前	民宿での生活体験（お母さん体験）	お母さんの家事（掃除、洗たく、食事の用意・片付けなど）の軽減につながる様、子ども達が自分一人で出来る事を教え、日常生活力を身につける。
	午後	農業体験 田植えをしてみよう	J Aほ場での野外活動。（例：田植え、ハトムギの種まき）
	宿泊	農林漁家民宿	家族への手紙を書く。
3日目	午前	林業体験 森の大切さを学んでみよう	間伐・枝打ち体験。
	午後	林業体験 森からの恵みを感じてみよう	切り倒した木材を使ってのベンチ・イスづくり。
	宿泊	農林漁家民宿	翌日のプログラムのため、早めに就寝。
4日目	午前	漁業見学 漁師の仕事を学んでみよう 漁業体験 魚を釣ってみよう	定置網漁業の見学、魚市場の見学、魚釣り。
	午後	魚さばき／干物づくり体験 魚を調理してみよう	包丁を使って魚をさばく。（さばいた魚は夕食に食べる）
	宿泊	農林漁家民宿	学習のとりまとめ。
5日目	午前	かまぼこづくり 閉村式	特産品のかまぼこをつくる。受入民宿や体験団体とのお別れ会。
	午後	学校まで移動	

富山県黒部市 くろべ都市農村交流実行委員会

問合せ先

窓口名：黒部市役所
住所：富山県黒部市宇奈月町内山 3353
TEL：0765-54-2111 FAX：0765-65-9121
E-mail：akiko-shimizu@city.kurobe.lg.jp

アクセス

最寄りの都市：富山市
集合場所：JR 黒部駅
車の場合：40分



受入概要

「くろべ都市農村交流実行委員会」は、平成14年度より、東京の子どもたちを黒部に招く都市農村交流を行ってきた。黒部を都市部にPRするとともに、農・漁業への理解を広め、かつ農・漁業に携わる方々の新たな収入源を開発することを主な目的として事業を進めている。また、これまでの活動経験を生かし、学校単位での受入れ、体験プログラムの開発等、さらなる事業の拡大を図っている。

当委員会では、農村文化伝承館山本家でのまき割り、かまどを使った自炊等を盛り込んだ、昔の農家泊をメインに取り組んでいる。また、黒部の魅力満載の体験プログラムの学習効果を高め、かつ安全に実施できるよう研究・改良しながら事業を進めている。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

黒部市は、富山県北東部に位置し、北から東には入善町・朝日町・長野県の県境が、南から西は魚津市・上市町・立山町に接しており、面積は427.96 km²で、富山県の約10%を占める。黒部市の地形は、北アルプスから富山湾まで3,000mの標高差があり、高山帯から低山帯、さらに黒部川の広大な扇状地、富山湾沿岸部など、変化に富んでいる。年間平均気温は平野部で14℃、年間降水量は平野部で2,500～3,500mm、山岳部で4,000mm以上と、わが国屈指の多雨多雪地帯である。また、海、川、山という大自然に恵まれ、美しい景観、人々の暮らしを支える豊かな水に囲まれているのが黒部市の特徴だ。黒部峡谷のトロッコ列車、宇奈月ダム、河原露天風呂、生地の漁村、清水（しょうず）と呼ばれる湧水のまちなど、他にはない自然体験ができる。

歴史・文化的な特色

昔の農村体験ができる、農村文化伝承館「山本家」や、峡谷がテーマになった作品を多数展示しているセレネ美術館、日本三奇橋である愛本のはね橋を復元、展示している宇奈月友学館、能楽堂を備えた国際文化センター「コラーレ」などの文化施設がある。

農林水産業の特色

黒部市では、黒部川扇状地や豊富な水等を背景として古来より水田農業が盛んに行われてきた。水稻以外の主要生産物としては、大豆、しろねぎ、特産物としてはもも、りんご、いなきび、ビール麦、チューリップ球根、丸いも、黒大豆等がある。

特用林産物の生産については、なめこ、木炭、山菜などがあり、なめこは県全体の約8割を占め、県内各地に出荷され、高い評価を受けている。

黒部市の海岸は深く流れが速く、波も荒いため、20t未満の漁船による日帰りの刺し網、釣りによる沿岸業が中心に行われている。また、夏場は観光用に体験地曳網も行う。このほか、黒部川・布施川で行われる内水面漁業がある。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民宿	農林漁家民泊	公設の宿泊施設	農林漁家以外の民宿
軒数	1	10	1	20
最大宿泊可能人数	40	30	152	4100
料金	700円～	5000円～	1740円～	5000円～

おすすめ体験学習プログラム

漁村のまちあるき（所要時間 120 分・漁業体験）

【期間】

4月～12月まで。

【内容】

生地地区（漁村）のまち歩きを行う。漁村の今昔の生活、文化（かまぼこ工場、昆布工場、清水の利用）を学ぶ。

黒部峡谷の自然・歴史体験（所要時間 180 分・自然・環境体験）

【期間】

5月～11月まで。

【内容】

トロッコ電車に乗り、雄大な黒部峡谷を体験する。黒部峡谷の歴史を学び、動植物の観察などを行う。



昔の農村の遊び（所要時間 60 分・自然・環境体験）

【期間】

7月～8月まで。

【内容】

メダカすくいや、自然に生えている草花を使った遊びの体験をする。



水だんごづくり（所要時間 120 分・食の体験）

【期間】

5月～11月まで。

【内容】

生地の伝統食文化である水だんごを作って食べる。

昔の農業体験（所要時間 90 分・農業体験）

【期間】

4月～12月まで。

【内容】

昔の農機具などの展示を見ながら、昔の農作業について話を聞く。かまどでご飯を炊く。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	-	○

おすすめのモデルプラン

プラン名	名水の里くろべこども自然体験村	実施時期	7月中旬～8月中旬まで
ねらい	児童が、黒部市独特の自然、農林漁業を体感し、グループ活動の中で協力しあいながら、他人を思いやる心、豊かな心を育み、身心をきたえること。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	入村式 牧場体験	オリエンテーション。バター作り、動物の世話体験。
2日目	宿泊	ふれあい交流館あこや～の	
	午前	農業体験、昔の遊び体験	メダカすくい。野菜の収穫、調理。
	午後	海釣り体験	海浜植物の観察、海釣り。
3日目	宿泊	ふれあい交流館あこや～の	
	午前	漁村体験	地引網体験。漁村のまちあるき、かまぼこ・昆布の工場見学。
	午後	伝統食文化体験	水だんご作り。
4日目	宿泊	農家民泊	
	午前	自然体験、河原露天風呂づくり	トロッコ電車に乗り、自然観察をしながら、峡谷の歴史を学ぶ。河原天風呂づくり。
	午後	昔の農業体験	山本家の農機具等見学、昔の農村生活を学ぶ。
5日目	宿泊	農村文化伝承館山本家	
	午前	宇奈月温泉まちあるき 離村式	宇奈月ダム、冬季歩道や黒部川電気記念館等で宇奈月温泉や電源開発の歴史を学ぶ。挨拶、反省等
	午後	移動	

富山県南砺市 南砺市利賀地域長期宿泊体験協議会

<http://www.shokoren-toyama.or.jp/~t>

問合せ先

窓口名：利賀村商工会
住所：富山県南砺市利賀村 89
TEL：0763-68-2527 FAX：0763-68-2626
E-mail：ayoshi@shokoren-toyama.or.jp

アクセス

最寄りの都市：富山市
集合場所：役場駐車場
車の場合：90分



受入概要

南砺市利賀地域では、東京都武蔵野市のセカンドスクール、東京都中野区にある宝仙学園短期大学利賀村移動授業などの学校教育事業や課外授業を長年、受け入れてきた実績がある。平成19年度までは受入組織「まかさっさい利賀」を中心に取り組んできたが、行政、商工会及び観光協会等の関係機関により、南砺市利賀地域での都市農村交流を推進する組織として、「南砺市利賀地域長期宿泊体験協議会」を設立した。

豊かな自然と地域の特性を生かした体験方法を提案し、子供たち一人一人が課題を解決していく学習を行っている。



受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

南砺市利賀地域は富山県の西南端に位置し、総面積 177.58 km²、うち林野が 96%を占める。急峻な山岳を源とする庄川とその支流利賀川・百瀬川の3つの河川が北流し、河川沿いの段丘や山腹のゆるい斜面上に22の集落が点在する。ほぼ山地性気候で、根雪期間は12月上旬から4月上旬、積雪が3mを超えることもある特別豪雪地帯である。

また、利賀地域が誇る豊かな自然環境を守り、山村の暮らしで培われた村民の豊かな知恵を生かし、自然のすばらしさ、重要さ、厳しさを各方面に継承している。特異性、固有性を有した動植物が生息する白木水無県立自然公園地域、「まなび」「あそび」「なごみ」の場となる利賀川や百瀬川河川公園などがある。これらの地域の保全と整備を積極的に進めると共に、「美しい地域づくり」を推進し、貴重な自然を次世代へ引き継ぐよう努めている。

歴史・文化的な特色

世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催する富山県利賀芸術公園を拠点にして、質の高い優れた演劇を毎年行っている。そのほか利賀地域には下記の指定文化財がある。

(国指定) 天然記念物：脇谷のトチノキ

(県指定) 彫刻：大豆谷八幡宮の僧形八幡神像、無形民俗文化財：利賀の初午行事、天然記念物：坂上の大杉

(市指定) 絵画：絹本着色阿弥陀如来来迎図、彫刻：栗当の不動明王磨崖像、彫刻：入谷の不動明王坐像、彫刻：細島熊野社の旧御神体、彫刻：大豆谷八幡宮の小神像・隨身像及び狛犬、古文書：五ヶ山両組草高免附百姓数品々帳、古文書：南大豆谷村土地文書、有形民俗文化財：阿別当の石仏、史跡：五谷山西勝寺、史跡：大野権兵衛の塚、史跡：栃原念仏道場跡、天然記念物：阿別当神明宮の石抱きケヤキ、天然記念物：坂上のカツラ、天然記念物：細島熊野社の社叢、天然記念物：入谷のミズナラ

農林水産業の特色

南砺市利賀地域の農業は標高500mから750mのところまに位置し、従来、米に関しては農協と行政の指導で栽培をしてきた。現在は、利賀村農業公社を中心として、米やそばのほか特産品の栽培等を行っている。その他地域の特性を活かした行者にんにくや舞茸、山伏茸、赤カブの栽培なども盛ん。林業は富山県西部森林組合利賀支部を中心として、植林、育林、伐採など行っている。川の産物としては岩魚の養殖があり、河原でのつかみ取り体験にも活用。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民宿	ホテル・旅館	公設の宿泊施設
軒数	12	1	4
最大宿泊可能人数	150	100	40
料金	5000円～8000円	1500円～3000円	5000円～7000円

おすすめ体験学習プログラム

岩魚の手づかみ体験（所要時間 90 分・漁業体験）

【期間】

5月中旬～10月下旬まで。

【内容】

百瀬川の清流に放たれた岩魚を素手でつかまえ、その岩魚を自分でさばいてくしに刺し、炭火で焼いて賞味する。（岩魚・木炭代が必要）



茅葺き体験（所要時間 180 分・自然・環境体験）

【期間】

6月上旬～11月中旬まで。

【内容】

富山県利賀芸術公園内の茅葺の合掌家屋を見学したり、茅屋根の説明や体験を行う。



そばの種蒔き（所要時間 90 分・農業体験）

【期間】

7月下旬～8月中旬まで。

【内容】

利賀では農業公社をいち早く立ち上げ、耕作放棄地を復旧するため、「みんなで農作業の日」や「そばオーナー制度」、セカンドスクール等で小学生を対象にした「そば播き・そば収穫体験」を実施している。

手打ちそば体験（所要時間 180 分・食の体験）

【期間】

通年

【内容】

利賀に古くから伝わる手打ちそばづくりを体験し、賞味する活動。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料留意
-	○	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	自然の大地を学ぶ①	実施時期	5月上旬～10月下旬まで
ねらい	普段、目の当たりにすることのない大自然に、思う存分触れさせ、都会では学べないことを肌で感じ取る。また自然の中での体験を通じて仲間意識を高め、連帯感を強化する。農家等の児童以外の世代との交流を通じて、農業・食料の大切さ・農村地域の役割と課題を共感することができる。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	入村式	受入農家との対面、オリエンテーション。
	午後	利賀地域観光拠点施設見学	そばの郷、瞑想の郷、飛翔の郷、郷土玩具美術館等。
	宿泊	農林魚家民宿・農林漁家民泊	天体観測。
2日目	午前	利賀の文化に触れる体験	民話語り部、そば打ち体験、餅つき体験。
	午後	森のプロフェッショナル体験	文化財散策、ふれあいの森、森林学習等。
	宿泊	農林魚家民宿・農林漁家民泊	家族への手紙を書く。
3日目	午前	アウトドア体験	利賀国際キャンプ場周辺で、岩魚のつかみ取り、カヌー体験、バーベキューを行う。
	午後	農作業体験	そばの種蒔き作業、炭焼き体験。
	宿泊	農林魚家民宿・農林漁家民泊	班別課題の取りまとめ。
4日目	午前	木工体験	鳥笛・コースター・小枝パッチ等作り。
	午後	遊歩道散策	標高992mの三角点を目標に、森林浴を楽しみながら自然を肌で感じる。
	宿泊	農林魚家民宿・農林漁家民泊	お礼の手紙を書く。
5日目	午前	昔遊び体験	農作業の合間に興じた子ども達の遊びを体験する。
	午後	離村式	受入農家とのお別れ会。

富山県朝日町 あさひふるさと体験推進協議会

<http://asahi-marugototaiken.jp/>

問合せ先

窓口名：あさひふるさと体験推進協議会事務局
住所：富山県朝日町横水300番地なないろKAN
TEL：0765-83-3700 FAX：0765-83-3636
E-mail：info@asahi-marugototaiken.jp

アクセス

最寄りの都市：富山市
集合場所：・カルチャーセンターみやざき
・なないろKAN
車の場合：60分



受入概要

子ども農山漁村交流プロジェクトの趣旨に則り、朝日町において小学校の農山漁村長期宿泊活動の受入れを地域連帯して行うために、平成23年6月に「あさひふるさと体験推進協議会」は発足した。当協議会事務局が窓口となり、小学校の農山漁村長期宿泊体験活動の受入れの地域内の調整を行っている。

「海・川・山 自然と人がつながる循環型の暮らし体験」をテーマに、ふるさと体験教育旅行を受入れており、自然の循環と人のつながりを学べる体験プログラムが充実している。歴史や文化に培われた生活の知恵や風習・伝統、自然を活かす暮らしの工夫、ものづくりの技術を体験できるほか、「結」の心で助け合う農山漁村の精神を体感し、仲間との助け合いや温かな心の触れ合いを通して田舎の魅力を発信している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

朝日町は、富山県の東端部に位置し、北は日本海に面し、東は新潟県糸魚川市、西は入善町、南は黒部市及び長野県白馬村と接している。山・川・海に恵まれた朝日町は、海拔0メートルから3,000メートルまで、227.41キロ平方メートルの面積を有し、その約60パーセントが「中部山岳国立公園」と「朝日県立自然公園」に指定されている。中部山岳国立公園は、新潟、富山、長野、岐阜の4県にまたがり、朝日町では、朝日岳、雪倉岳、白馬岳が含まれる。

富山湾の外海である宮崎・境海岸は、日本でも珍しい小石の海岸で、ヒスイの原石が拾えることからヒスイ海岸と呼ばれ「日本の渚・百選」「快水浴場百選」に選定されている。北はヒスイ海岸から南は中部山岳国立公園に接する一帯にかけての9,623ヘクタールは、朝日県立自然公園に指定されている。高山植物の宝庫白馬岳(2,932メートル) 朝日岳(2,418メートル)などを主峰とする北アルプス連峰がそびえ、これらの山々に源を発する小川・笹川・境川などの各河川は、アユや鮭が遡上するきれいな水質が保たれている。

歴史・文化的な特色

山合いの蛭谷地区には、バタバタ茶と呼ばれる独自の文化が根付いている。室町時代、蓮如上人が地区で既に飲まれていた黒茶を説法に利用したとされ、蛭谷の集落では、講(經典の講義をする会)、月命日、結婚、出産など様々な集いの際に、ご近所を招いたお茶会を催し親睦を深める場としている。朝日町の地場産品として、茶葉の栽培から製造までを町内で一貫して行い、缶、ペットボトル飲料としてバタバタ茶を気軽に楽しむことができる。

農林水産業の特色

【漁業】富山湾の特徴を生かした定置網漁業を中心とした沿岸漁業及び、イカ釣り、かにかご漁業等の沖合漁業が営まれている。特にサザエは、県内1位の漁獲高を誇る。宮崎漁港がある宮崎名物「たら汁」は、ぶつ切りにしたたらをキモまで全て鍋に入れて煮たみそ汁で、たらからしみ出すダシと味噌の風味だけで味わう郷土料理。

【農業】コシヒカリを中心に、こまつなやさわし柿、チューリップ切花などが栽培されている。近年は、ハトムギの栽培と合わせペットボトル飲料を製造し新たな特産品化に取り組んでいる。また、農家の女性を中心となり起業し、地場産の旬の農林産物を使った漬物や味噌、餅等の加工食品の製造販売を行っている。

【林業】杉の人工林が中心で、新川森林組合が保育などの管理を行っている。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民宿	公設の宿泊施設	農林漁家以外の民宿
軒数	3	1	3
最大宿泊可能人数	167	25	438
料金	6000円～	1400円～	6000円～

おすすめ体験学習プログラム

野菜の収穫体験（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

通年

【内容】

食を支える農業の仕事について学ぶプログラム。野菜の収穫体験を通じて、自然を相手にする農業の大変さ、すばらしさを学び、当りに感じていた食への感謝の心を育む。



魚さばきとタラ汁づくり体験（所要時間 90 分・漁業体験）

【期間】

通年

【内容】

とれたての新鮮なタラをさばいて、宮崎地区の伝統食である漁師メシ「タラ汁づくり」を体験する。



朝日町特産の「バタバタ茶」体験（所要時間 60 分・食の体験）

【期間】

通年

【内容】

茶畑でお茶の木の栽培の様子を見学し、朝日町特産のバタバタ茶の歴史を学びながら、自分でいれたバタバタ茶を味わう。

和紙づくり体験（所要時間 180 分・ふるさと体験）

【期間】

4月～12月まで。

【内容】

国の伝統工芸「越中和紙」のひとつ「蛭谷和紙」の和紙づくり体験として、材料となる楮の準備から始まり、昔ながらの方法で紙漉きを体験し、さらに、手づくりした竹筆で、書道作品を作る。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	○	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	ふるさと体験教育旅行	実施時期	5月上旬～10月下旬まで
ねらい	児童が、あさひの自然の中で特色ある農山漁村の暮らしを体験し、チャレンジするとともに、農林漁家民宿での家族的な異世代交流、集団活動や規則正しい生活を行うことで、様々な状況・立場をわきまえた判断ができ、行動していける“生きる力”を培うこと。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	開校式	オリエンテーション、仲間づくり（名札づくり、役割分担確認、グループゲーム）。民宿ごとに分かれて活動（挨拶・自己紹介、民宿での交流体験）。
2日目	宿泊	農林漁家民宿	民宿の家族と異世代交流。
	午前	漁村体験	サザエの網外し体験。魚さばきとタラ汁づくり体験。
3日目	午後	漁村体験	ヒスイ探し、勾玉づくり体験。
	宿泊	民宿	星空観察会。
4日目	午前	漁村体験	野菜収穫、農作業機械試乗。
	午後	里山体験	川の生きもの調査、魚のつかみ取り。
5日目	宿泊	農林漁家民泊	ふるさと語り部交流。
	午前	山村体験	森の遊具づくり、森の遊具体験。
5日目	午後	山村体験	和紙づくり、森の塩づくり。
	宿泊	農林漁家民宿	家族への手紙を書く。
5日目	午前	宿泊体験活動のまとめと閉会式	宿泊体験活動のまとめ（地域関係者のサポート付き）：班別に、農林漁家泊での学習の成果の取りまとめを行う。
	午後	学校まで移動	閉村式：受入民宿や体験団体とのお別れ会

石川県輪島市

奥能登子ども農山漁村交流プロジェクト受入協議会

<http://www.okntkoik.jp/>

問合せ先

窓口名：奥能登広域圏事務組合
 住所：石川県輪島市三井町洲衛 10 部 11 番 1
 TEL：0768-26-2314 FAX：0768-26-2315
 E-mail：okunoto1@okntkoik.jp

アクセス

最寄りの都市：金沢市
 集合場所：珠洲市 能登半島 里山里海自然学校
 車の場合：130 分



受入概要

「奥能登子ども農山漁村交流プロジェクト受入協議会」は、子ども農山漁村交流プロジェクトの趣旨に則り、奥能登2市2町において、小学校の農山漁村長期宿泊体験活動の受入を地域で連帯して行うために、平成20年6月に発足した。農家民宿等の宿泊を中心に、100名程度の受入を実施している。宿泊で使用する農家民宿は、農家の家屋をそのままの形で残している所が多く、民泊と同様にアットホームな雰囲気を感じることができるのが特徴である。現在のところ珠洲市（日置地区）輪島市（曾々木地区）能登町（宮地地区）の3地区での受け入れを行っているが、いずれの地区も30分のエリア内に立地しているため、分宿が可能である。生活力の向上を主眼においた活動展開をしており、農業体験や漁業体験を中心とした豊富な体験プログラムを有している。



受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

能登半島は日本海に突出した地域であり、断崖地形からなる雄壮な外浦と波穏やかな内浦に囲まれている。もともと大陸との交流の窓口でもあり、福浦港（志賀町）は、渤海航路の玄関口としての機能を担っていた。

能登の各地は県庁所在地の金沢市から能登有料道路を使用し、概ね1時間から2時間強の距離にあるが、平成15年7月に能登空港が開港し、アクセス性の向上が図られたところである。

また、海岸線を中心として「能登半島国定公園」に指定されるなど、優れた自然環境と景観も保有している。能登半島国定公園内では、海水浴場やキャンプ場などが併設されており、豊かな自然を満喫することができる。

周辺海域には、暖流である対馬海流が海岸線沿いに北上しており、沖合には大和堆、白山瀬などの良好な中深度海域を有し、水産資源に恵まれている。

歴史・文化的な特色

能登は、古くから大陸文化を先駆けて受け入れており、中世には海上交通の要所として栄えていた。古くから文化の先進地域として、現代に伝わる各種伝統芸能や伝統工芸を貴重な財産として継承するとともに、能登演劇堂（七尾市）や能登島ガラス美術館（七尾市）に代表されるような洗練された新たな文化の創造にも取り組んでいる。

また、千里浜、能登金剛、九十九湾など変化に富んだ美しい海岸線や四季折々の美しい自然、湯量豊富な温泉とそこで培われてきた「もてなし」の文化、能登のキリコに代表される様々な地域の祭りなど、他地域には見られない固有の資源を数多く有している。さらに、能登は、伝統発酵食品（いしる（魚醤））、能登珪藻土、輪島塗、海洋深層水など地域資源に恵まれており、特産品を活用した地域ブランドを創造し、新産業の創出を図る取り組みを進めている。

農林水産業の特色

奥能登は、日本の南北の中間に位置していることから、農産物等においては、水稻、ジャガイモ、サツマイモ等をはじめ、多種多様な農作物の栽培が可能である。水産物においては、3方が海に囲まれているため、水産資源も抱負で、特に定置網等が盛んである。日本の南北の中間に位置しており、魚種も豊富だ。また、高い山等がない丘陵地であるが、自生している山菜やコケ類も抱負で季節ごとに採取を楽しむことができる。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	公設の宿泊施設
軒数	10	29	4
最大宿泊可能人数	40	460	404
料金	4500円～	6500円～	7140円～

おすすめ体験学習プログラム

農業体験(田植え・稲刈り) (所要時間 120 分・農業体験)

【期間】

9月～10月まで。

【内容】

昔ながらの方法で、田植えや稲刈りを体験する。稲刈り時には、はざ干しや、脱穀等も体験出来る。



里山保全活動体験 (所要時間 120 分・自然・環境体験)

【期間】

3月上旬～12月上旬まで。

【内容】

荒廃した里山の保全活動や山間に散在するため、池周辺のピオトープの保全活動及び自然観察を行う。

例：保全林内での雑木伐採と薪づくり、ピオトープ周辺の除草作業と動植物の観察・調査

輪島塗・蒔絵 (My箸づくり) (所要時間 30 分・クラフト体験)

【期間】

通年

【内容】

重要無形文化財として有名な「輪島塗」を使用した体験プログラム。伝統工芸輪島塗の絵付け技法である「蒔絵」を体験できる。箸に好みの模様を描き、オリジナルの箸を制作する。

沿岸漁業体験 (所要時間 150 分・漁業体験)

【期間】

5月上旬～10月下旬まで。

4月上旬～11月下旬まで。

【内容】

・漁船による刺し網体験、たこつぼ揚げ体験、など沿岸漁業で行っている漁業を体験できる。手こぎ体験やロープ結び教室、捕った魚の干物づくり体験など港周辺での体験メニューも可能。

受入時の安全対策

学校関係者向け ガイドライン作成	受入地域内関係者の ガイドライン作成	他安全対策資料用 意
-	-	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	奥能登の暮らしを支える里山里海 体験コース (珠州市)	実施時期	4月中旬～10月下旬まで
ねらい	児童が、能登地域の特色ある自然・農林漁業を体感し、チャレンジするとともに、農林漁家泊での家族的な異世代交流、集団活動や規則正しい生活を行うことで、様々な状況・立場をわきまえた人物を育成すること。また、人間らしく判断して、行動していける“生きる力”を培うこと。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	移動	
	午後	レクチャー	里山保全体験の説明(安全管理、道具の取扱い等)。能登の里山の事前学習、磯観察。
2日目	宿泊	国民宿舎 きのうら荘 (日置地区)	
	午前	里山保全活動又はピオトープ保全活動	雑木及び間伐材の伐採及び薪作り(保全林)。ピオトープ周辺の保全活動及び自然観察。
	午後	里山保全活動又はピオトープ保全活動	雑木及び間伐材の伐採及び薪作り(保全林)。ピオトープ周辺の保全活動及び自然観察。
3日目	宿泊	民宿 (日置地区周辺)	夕食時に各民泊受入家族を紹介。
	午前	収穫体験又は収穫準備体験 (山又は農地)	宿泊民家の農地、山林で収穫体験または収穫のための準備作業体験(きのこ、野菜、穀類など季節に合わせ選択)。
	午後	収穫体験又は収穫準備体験 (山又は農地)	午前の体験作業を継続。夕食用の食材(野菜など)を家人と共に収穫し帰宅(16:00頃)。
4日目	宿泊	民泊 (日置地区周辺農林漁家)	各民泊家庭には朝食後移動し、体験活動に入る。
	午前	漁獲体験 (海)	地引き網又は刺し網体験のための説明と準備作業。(漁船への積み込みや船上、及び漁獲作業の留意事項など)。
	午後	魚さばき体験	安全管理、作業説明の後、干物づくりを体験する。
5日目	宿泊	民泊 (日置地区周辺農林漁家)	お世話になった方への礼状や保護者への手紙作成。
	午前	定置網体験 (早朝) とお礼活動	定置網の網おこしを見学(マイクロバス送迎)。朝食後は、使用した家庭の掃除の後、意見交換の後お別れ。
	午後	帰路	昼食は別途(50人程度までなら、里山里海食堂「へんざいもん」も可能。700円/人～)

石川県七尾市 七尾市ふるさと子ども夢学校推進協議

<http://www.city.nanao.lg.jp/>

問合せ先

窓口名：七尾市ふるさと子ども夢学校推進協議会事務局
(七尾市産業部観光交流課内)

住所：石川県七尾市袖ヶ江町イ部2 5番地
TEL：0767-53-8424 FAX：0767-52-2812

E-mail：y-okauma@city.nanao.lg.jp

アクセス

最寄りの都市：金沢市
集合場所：能登食祭市場（道の駅）
車の場合：60分



受入概要

「七尾市ふるさと子ども夢学校推進協議」では、七尾市にある豊富な地域資源を活かした“学習効果のあるプログラム”を基本方針として取り組むとともに、“安全・安心な受入体制整備”の構築を図るため、平成18年度から事業を進めていくための環境整備を全庁横断的に取り組んできた。特に、3地域のオリジナルメニューを地域ぐるみで調査研究し、独自のプログラムを開発した。今後、“学習効果のあるプログラム”の実現を目指すために、地域内の農林漁家や体験指導者を対象に、人材育成を実施し、個々の児童に対してきめ細やかな配慮と家庭的な交流の提供に努めている。磯観察や魚さばき体験、そして民宿の手伝いや語る会（民話）など、その地域における生活を体験し、地域住民との交流を深め、田舎暮らしを身体で体感してもらうことにより、「思いやり」などのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした、「七尾オリジナル」のプログラムを提供している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

七尾市は、石川県の北部、能登半島の中央部東側に位置する。北側は穴水町、西側は志賀町、南側は中能登町及び富山県氷見市と接しており、中央部には七尾西湾、七尾南湾があり、その北東に能登島が位置している。市域の東部から南部、西部にかけては山地が広がり、海辺の低地に市街地が展開し、七尾西湾、七尾南湾に主要河川が注いでいる。日本海と海岸線、山並みなどが複雑に重なり合い創りだした、美しい自然景観が特徴である。

【海・港】富山湾側は、海流の会合良好な漁場となっており、豊富な海産物が水揚げされている。中島地域では豊富なプランクトンを有する七尾西湾の自然資源が、牡蠣の養殖を支えている。

【山・丘陵地】南部に位置する城山は、市街地に近い丘陵地としては、豊富な植生を持つことで知られている。石動山から連なる城山から伊掛山へと続く東部の丘陵地と眉丈岳から赤蔵山へ連なる低い丘陵地にはさまれた邑知地溝帯（低地帯）があり、さらに北部には日本海の内浦と外浦を同時に望める別所岳を有している。

歴史・文化的な特色

【藩政時代の文化】「能登国」を治めた畠山氏は、特に第8代義総の頃に京都より多くの文化人を呼び寄せ、優雅な畠山文化を築き上げた。天正9年、前田利家が入城し、城を小丸山に移した際に築いた城下町の町割りは、現在も残されている。

【外国からの輸入文化】明治初期、七尾には藩の軍艦所かせ置かれ、その中には語学所も設置された。加賀藩が外国語教師としてパーシヴァル・オズボンを招へいた頃から海外の文化の影響を受けて建てられた近代洋館建築が市内に残されている。

農林水産業の特色

【農業】七尾市の農業は、水稻を主要作物とする零細農家が大勢を占めている。最近では、能登全体で「能登野菜」の振興が進められ、当市においては中島菜・沢野ごぼう・能登白ねぎ・能登すいか等のブランド化を進め農業振興及び観光振興に取り組んでいる。

【林業】七尾市の総土地面積の64%を森林が占めている。森林のもつ公益的機能の回復を図るため、手入れ不足人工林の整備を進めている。また、能登島地区では、アカマツ林の環境整備により、マツタケ山の再生を図る取組を試験的に行う。

【水産】七尾湾と富山湾という好漁場に囲まれ、古くから漁業が盛んに行われている地域で、七尾市の主要な産業の一つ。沿岸漁業では七尾湾内における底びき網漁業や刺網漁業、富山湾内における定置網漁業が主である。七尾湾内では、アカガイ、トリガイ、ナマコなど、富山湾内では、ブリ、クロマグロ、サワラなど多種多様な魚が一年を通して水揚げされている。養殖漁業では七尾西湾区域でカキ養殖が行われている。「能登かき」の名前で、一年で出荷されている。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家以外の民宿	公設の宿泊施設
軒数	16	39	1
最大宿泊可能人数	80	1400	37
料金	3500円～	6300円～	5000円～

おすすめ体験学習プログラム

有機野菜農家農作業体験（所要時間 180 分・農業体験）

【期間】

4月上旬～10月上旬まで。

【内容】

食の安全が求められているなか、有機野菜の生産方法を学習し体験学習を行う。体験はあえて、手作業を中心に行い直接体で体感し、生産者の苦労の一端を学ぶ機会にする。

ガラス工房体験（所要時間 120 分・クラフト体験）

【期間】

通年

【内容】

ガラスの魅力について、能登島ガラス美術館の学芸員から解説後、個々のテーマを設定し作成に取り組む。

野生イルカウォッチング（所要時間 60 分・自然・環境体験）

【期間】

通年

【内容】

七尾北湾に生息している野生のイルカの観察を解説付きで紹介する。

漁獲体験（所要時間 120 分・漁業体験）

【期間】

4月～11月まで

【内容】

能登島地域の漁家の協力を得て行うもので、その時期に応じて、漁家が日常的に取り組む行為を生活体験として提供することにしている。



受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	○	○

おすすめのモデルプラン

プラン名	七尾市能登島地域の農山漁村交流・体感プログラム	実施時期	4月上旬～10月下旬まで
ねらい	児童が、能登島地域の特色ある自然・農林漁業を体感し、チャレンジするとともに、農林漁家泊での家族的な異世代交流、集団活動や規則正しい生活を行うことで、様々な状況・立場をわきまえた人間らしく判断して、行動していける“生きる力”を培うこと。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	入村式（地域に関する情報交換等） 里山散策・保全活動	挨拶・自己紹介、当該地域に関する情報交換。昔の小学校通学路（里山）体験、保全活動。動植物の観察。
	宿泊	民間宿泊施設	団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
2日目	午前	有機野菜農家農作業体験	当該地域の有機野菜の解説と参加全児童で農作業体験を行う。
	午後	海に学ぶ自然生態学習、体験プログラム	能登島水族館内において生態観察。野生イルカウォッチング。
	宿泊	民間宿泊施設	団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
3日目	午前	漁獲体験	地引き網又は刺し網体験のための説明会と準備作業。
	午後	ガラス工房体験学習	ジュエリー、とんぼ玉、サンドブラスト、吹きガラス体験。
	宿泊	民間宿泊施設	自らが食する魚料理体験。団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
4日目	午前	能越自動車道建設現場視察	建設現場を視察し、高速道路の重要性、必要性を学ぶ。
	午後	LPG備蓄基地視察	備蓄の意義を学ぶ。
	宿泊	民間宿泊施設	団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
5日目	午前	定置網体験（早朝）とお礼活動	定置網の網おこしを見学。朝食・片付け・清掃活動・お別れ会（民宿への御礼）
	午後	学校まで移動	

石川県志賀町 志賀町グリーン・ツーリズム研究会

<http://www.togi-resort.jp/facilities/bokkai/index.html>

問合せ先

窓口名：シーサイドヴィラ渤海
住所：石川県志賀町富来領家町甲の59
TEL：0767-42-8080 FAX：0767-42-8081
E-mail：info@bokkai.jp

アクセス

最寄りの都市：金沢市
集合場所：シーサイドヴィラ渤海
車の場合：60分



志賀町

石川県

受入概要

「志賀町グリーン・ツーリズム研究会」では、安全・安心な受入体制をしっかりと構築した上で、志賀町にある豊かな自然と伝統文化の優れた資源を活用し、小学校の児童を対象に教育的効果の高い体験プログラムを提供することを重要な方針とし、取り組みを行っている。都市では物が豊かになり、生活が便利になると同時に、ふるさとが失われつつある。田舎を知らない子供たちに、海や森などの自然、郷土料理、その土地ならではの人の温もりを体感してもらうことがこの研究会の目的である。志賀町ならではの体験メニュー、そして豊富なプログラムを通じて、農業や漁業について学ぶ機会を提供している。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

志賀町は、能登半島中央部に位置し、東西 12.7 km、南北 31.0 kmと南北に細長い地形を有している。西側は日本海に面し、北は輪島市や穴水町に、東は眉丈山系に連なる丘陵地帯で七尾市や中能登町に、南は羽咋市に接している。面積は、246.55 平方キロメートルで、町の土地は、林野が 65.9%を占め、経営耕地が 10.3%、宅地が 3.1%、その他が 20.7%となっている。

志賀町は、豊かな自然に恵まれ、奇岩・怪石や白砂青松の海岸線は、能登半島国定公園の一部で、能登金剛と称され、源義経の伝説とともに能登を代表する美しい景勝地となっている。また、町の中央部のなだらかな丘陵地には、リゾートホテル、ゴルフ場、別荘地を有する志賀の郷リゾートなど多様な観光資源を抱えている。

歴史・文化的な特色

志賀町は、古くから人々が住みついており、縄文時代や弥生時代、古墳時代の遺跡が多くある。奈良・平安時代には、大陸の渤海国（現在のロシア、中国、北朝鮮あたり）との交流があり、藩政期には、福浦港は北前船の西廻り航路の寄港地として栄え、腰巻地蔵や日本最古の木造灯台である旧福浦灯台が今もなお残っている。

まちの文化遺産としては、室町時代に建立された松尾神社本殿などが国指定の重要文化財となっているほか、夏から秋にかけては、町内のいたるところで祭りが行われるシーズンとなり、堀松の綱引き祭り、数十基のキリコ（奉灯）が繰り出す八朔祭礼、県内で最も古い歴史を持つ太鼓打競技大会などの伝統行事や獅子舞、太鼓が伝承されている。

農林水産業の特色

志賀町は、古くから農林漁業が基幹産業であり、平成 17 年の第一次産業人口割合は 12.4%と石川県全体（3.9%）と比較して高い割合を示しているが、年々減少傾向にある。

農業では、コシヒカリなどの稲作のほか、ころ柿（干し柿）、赤土スイカ、葉タバコなどの特産物があり、漁業では、甘エビのカゴ漁、ズワイガニ漁、巻網漁、底引網漁、刺網漁定置網のほか、サバやハマチの畜養（中間育成）も行われており、2箇所の道の駅（ころ柿の里しか、とぎ海街道）などでの農林水産物直売や町の実験農場での体験農園（ジャガイモオーナー、リンゴオーナー）なども行っている。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家民宿	ホテル・旅館	公設の宿泊施設
軒数	8	10	1	3
最大宿泊可能人数	48	240	300	120
料金	4000 円～	6000 円～	8400 円～	7350 円～

おすすめ体験学習プログラム

地引網体験（所要時間 120 分・漁業体験）

【期間】

4月～11月まで。

備考：波の穏やかな時期・時間帯であれば可能。

【内容】

地引き網を2班に別れて、最初はロープ、次に網を引く作業の体験を行う。また、捕れた魚介類を種類別に分けて、志賀町の沿岸での漁業資源の状況の一端を学ぶ。



志賀町とき実験農場での農業体験

（所要時間 120 分・農業体験）

【期間】

通年

【内容】

ブドウ・リンゴの剪定、摘蕾・摘果、収穫、ジャガイモの作付～収穫、花卉の苗の育苗の体験を行う。雨天時には志賀町をはじめ県、全国の統計データ基に、食料自給率の紹介や農林漁業の現状（担い手の高齢化・不足、耕作放棄地の増加等）を説明する。



農家レストランで能登の郷土料理体験

（所要時間 180 分・食の体験）

【期間】

通年

【内容】

地元で取れたもので作る郷土料理の昼食づくりの体験を行い、昼食時には食談、昼食後には片付けを行う。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	-	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	志賀町北部の農山漁村交流・体験プログラム	実施時期	通年
ねらい	児童が、志賀町の特徴のある自然・農林漁業を体験し、チャレンジするとともに、農林漁家泊での家族的な異世代交流、集団活動や規則正しい生活を行うことで、様々な状況・立場をわきまえた人間らしく判断して、行動していける“生きる力”を培うこと。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	現地までの移動	
	午後	入村式（地域に関する情報交換等）	挨拶・自己紹介、当該地域に関する情報交換（事前学習に基づく、児童からの質問に答える。）
	宿泊	公的宿泊施設「シーサイドヴィラ 渤海」	団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
2日目	午前	海産物の干ものづくり体験	海産物の干ものづくりの現場見学、体験を行う。
	午後	農林漁家の生活体験（班別活動）	各農林漁家泊先との対面し、自己紹介をする。各農林漁家泊先に任せて、農林漁家の生活を体験する。
	宿泊	農林漁家民宿	夕食後、午後の生活体験の感想を語り合う。
3日目	午前	農林漁家とお別れ モチづくり体験と試食会	農林漁家とお別れ会。志賀町産モチ米を杵と臼を使ってモチ作りの体験を行う。
	午後	モチづくり体験と試食会 地引き網の体験	作ったモチに餡子やきな粉を付けて試食会を行う。能登リゾートエリア増穂浦で地引き網の体験を行い、とれたての魚を使って夕食を準備する。
	宿泊	能登リゾートエリア増穂浦	団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
4日目	午前	草木染体験 農家レストランで能登の郷土料理体験	身近に自生する植物を採取し、ハンカチなどの絞り染めの体験を行う。郷土料理の昼食づくり体験。
	午後	農家レストランで能登の郷土料理体験 宿泊体験活動のまとめ	昼食と食談、片付け。班別に、農林漁家での宿泊や体験の学習成果の取りまとめ及び保護者宛の感想を手紙にする。
	宿泊	公的宿泊施設「シーサイドヴィラ 渤海」	団体生活を体験し、規則正しい生活を過ごす。
5日目	午前	片付けとお別れ会	片付け・清掃活動。児童による受入関係者に向けたお別れ会（演奏会）
	午後	学校まで移動	

福井県美浜町 若狭美浜はあとふる体験推進協議会

<http://heartful-mihama.com/>

問合せ先

窓口名：NPO法人はあとふる美浜ネット
住所：福井県美浜町松原 35-16-18
TEL：0770-32-2222 FAX：0770-32-22
E-mail：wakasamihama@kl.mmnet-ai.r

アクセス

最寄りの都市：金沢市
集合場所：美浜町総合運動公園
車の場合：130分



受入概要

「若狭美浜はあとふる体験推進協議会」では、地域資源である「人と自然」をテーマに、都市（住民・体験者）と農山漁村（担い手・地域住民）が互いに高め合う体験を目指している。美浜の自然、歴史、文化、産業に根ざしたありのままの暮らしの中で、体験者と地域住民との「ホンモノ体験」交流を通じて、人と人との触れ合い、人と自然との関わり、豊かな食文化や生活文化などの価値の大切さを伝える活動を行っている。教育的効果の高い体験プログラムの質的向上にも意欲的に取り組んでいる。

また、安全対策の強化と責任ある組織体制の確立を図り、受入先やインストラクターへの指導や継続的な研修の実施、事故に備えた保険への加入、事故発生時の対応、衛生管理の徹底など十分な安全対策を講じているのが特徴である。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

美浜町は、福井県南西部に位置し、東西約19km、南北27km、総面積152.32km²の広がりを持つ町で、リアス式海岸の若狭湾に面している。

美浜町は若狭湾国定公園である若狭湾、南に標高900m前後の山地を控え、町域の約80%を占める豊かな森林から流れる耳川、東の半島には日本水浴場8選の「水晶浜」、さらに西には「名勝三方五湖」で知られる久々子湖、日向湖を有した、海山川湖の自然に恵まれた町である。

歴史・文化的な特色

由緒ある寺社などに加え、学術的価値の高い「王の舞」「水中綱引き」などの無形民俗文化財を有している。さらには戦国時代の山城であった場所を国吉城址史跡公園整備として取り組んでいる。

農林水産業の特色

【農業】農業は水稻と施設栽培での野菜・花き等の複合的な農業経営が主流をなしていたが、現在問題となっている高齢化や兼業化に対応するため、農業振興の新しい方向を検討している段階である。

【漁業】紀伊水道と太平洋の合流海域が主な漁場であることにより、好漁場に恵まれた海域として古くから盛んに行われてきた。伝統漁法である地曳網漁については、全国的に見ても価値のあるものと言え、シラス漁の水揚げが行われている。また、三尾ではイセエビ・アワビ漁が盛んである。



宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民泊	農林漁家以外の民宿	ホテル・旅館
軒数	50	3	3
最大宿泊可能人数	200	38	300
料金	6510円-	5000-6500円	6825円-

おすすめ体験学習プログラム

コシヒカリの田植え体験（所要時間 180 分・農業体験）

【期間】

5月上旬～6月上旬まで。

【内容】

稲苗の植え付け作業の具体的な使い方や安全についての指導、説明を受け、昔ながらの手植えによる伝統的な田植えに挑戦する。田植杵を転がして正方形の後をつけて、筋どおりに苗を植えていく。福井県生まれのコシヒカリを通して農業の楽しさや喜びを学ぶ。

地びき網、食体験（所要時間 180 分・漁業体験）

【期間】

4月上旬～6月下旬まで。8月下旬～11月下旬まで。

【内容】

地びき網は、美浜町で行われた伝統的な漁法の1つ。船に積んだ網を遠浅の砂浜に囲むように入れて、砂浜に生息する魚を帯状の網で囲い浅瀬に引き揚げて魚を捕る体験をする。捕れた魚は観察した後、調理する。

屏風ヶ滝トレッキング（所要時間 180 分・自然・環境体験）

【期間】

4月上旬～11月下旬まで。

【内容】

美浜町の自然について説明し、安全や体調、行程、ポイントなどを確認したのち、トレッキングを開始する。周囲の木々、植物、地形など、観察しながら景色を楽しむ。

郷土料理体験（所要時間 45 分・食の体験）

【期間】

通年

【内容】

季節の食材を活用した煮物・汁物・和え物・揚げ物・茹で物などの料理づくりを通して、農漁村に伝わる伝統的な食文化を体験する。包丁の使い方、材料の切り方、味付けの仕方、盛り付けを教わり郷土料理を完成させる。

溪流釣り体験（所要時間 180 分・スポーツ・レジャー体験）

【期間】

通年

【内容】

清流・耳川の源流近くにある新庄溪流の里で、ニジマス釣りをを行う。道具の使い方、餌の付け方から習うことができる。釣り上げたニジマスは調理方法の指導を受け、焼いて食べる。自然の中で、自然環境との触れ合いや関わり方を学ぶ。

受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	-	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	若狭美浜はあとふる春の交流体験	実施時期	5月上旬～6月上旬まで 5月上旬～11月下旬まで
ねらい	宿泊体験を通して、美浜町の農林水産業、歴史・文化を学び、知識や技能を活用した課題解決するための思考力、判断力を育成する。生産現場から食につながる体験を行い、食育や「いのち」にふれる学習の場とする。初めて出会う人たちと交流を深め、表現力の育成や公共の精神の尊重を図る。体力の向上と仲間と協力することの大切さを体感する。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	入村式・昼食	歓迎式及びオリエンテーション、昼食。
	午後	農家ふれあい体験	花・アロエベラ・トマト・ぶどうなどの作業体験に挑戦。
	宿泊	農家民宿（ホームステイ）	自己紹介を行い、受入れ家族と団欒の時間を過ごす。
2日目	午前	田植え体験	昔ながらの手植えによる伝統的な田植えを体験する。先人の知恵や技術を体感し、食や環境に対する理解を深める。
	午後	クラフトふれあい体験	わら細工・昔のおもちゃ作り・つる細工・木工体験・ネイチャークラフト・押し花作りなどのクラフトに挑戦する。
	宿泊	農家民宿（ホームステイ）	受入れ家族と団欒の時間を過ごす。
3日目	午前	郷土料理体験（へしこ・田舎・そば打ちなど）	季節の食材を活用した料理作りを通して、農漁村に伝わる伝統的な食文化を体験する。インストラクターと農漁村の暮らしについて語らいながら郷土料理をいただく。
	午後	林業体験	森の環境や木々の生態、安全について説明と指導を受け、間伐作業を行う。環境問題と森林との関連、自然災害防止など「環境」に触れる。
	宿泊	民宿	漁家民宿で、漁村の生活に触れる。
4日目	午前	地びき網漁体験・食体験	船に積んだ網を遠浅の砂浜に囲むように入れて、網の両端に結んだロープを陸地から二手に分かれ、みんなで協力して引き寄せる。捕れた魚は観察後、調理して食す。
	午後	漁家ふれあい体験	波止釣り・養殖場工サやり・タコ壺漁・干物作りをする。自然環境との関わり方、魚食への理解を深める。
	宿泊	旅館（1校1館）	地元小学生や環境保護団体との交流を行う。
5日目	午前	ボート体験	安定性の高いナックル艇を用い、5名+インストラクターがチームになり練習、競技を行う。目標に向かいみんなの気持ちを合わせる大切さ、チームワークの良さを競う。
	午後	離村式	交流を深めた受入家庭・民宿・インストラクター及び若狭美浜はあとふる体験推進協議会とのお別れセレモニー。

福井県若狭町 若狭三方五湖わんぱく隊

<http://www.wanpakutai.com/>

問合せ先

窓口名：社団法人若狭三方五湖観光協会
住所：福井県若狭町三方 39-5-2
TEL：0770-45-0113 FAX：0770-45-0129
E-mail：wakasa@wakasa-mikatagoko.jp

アクセス

最寄りの都市：福井市
集合場所：若狭町役場三方庁舎
車の場合：90分



受入概要

地元住民や文化とふれあいを通じて、田舎に住む子ども達ですら触れ合うことの少なくなった自然や「本物の農山漁村の暮らし」を体験する機会を提供するため、「若狭三方五湖わんぱく隊」が設立された。里のプログラムでは、今日の農業に取り組む若者達に職業としての農業の楽しさや苦勞を伝え、就農意識の向上となる機会を提供している。海のプログラムでは、ベテランの漁業者と作業を共にすることにより、漁業の難しさややりがい、命の大切さについて体感しながら学ぶことができる。若狭町の恵まれた環境を活かし、自然の中でのアクティビティ、歴史、文化を織り交ぜた体験プログラムを提供することで、参加者が自然を体感し、自然の声を聞き、人間本来の姿、自分自身を見つめ直すきっかけを生み出すことが、この「若狭三方五湖わんぱく隊」の目的である。

受け入れ地域の特徴

自然・地理的な特色

若狭町は、福井県の南西部にある面積178.65km²の町である。平成17年3月31日に「三方郡三方町」と「遠敷郡上中町」が合併し、「三方上中郡若狭町」が誕生した。

若狭町は若狭湾国定公園の中心部に位置する、水資源が豊富な町である。国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録された「三方五湖」、全国名水百選「瓜割の滝」、近畿一美しい川とされる1級河川「北川」など、多くの水資源を有している。

歴史・文化的な特色

若狭町の歴史は1万年以上昔の縄文時代にまでさかのぼる。地域には「縄文遺跡」や「古墳」が数多く点在している。国道303号線は、かつて日本海と畿内を結ぶ「若狭街道」として多くの物資や文化が行き交い、交易において重要な役割を担っていた。なお、街道に沿って栄えた宿場町「熊川宿」は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

農林水産業の特色

【農業】農業部門では、約180年の歴史を持つ福井梅を栽培している。なお、この福井梅の栽培は、ラムサール条約湿地に登録されている三方五湖の湖畔で栽培されている。また、近畿一の清流である北川の周辺では、福井県発祥のコシヒカリmの栽培を行っている。

【林業】若狭町は約12,000haの森林面積を有しており、その森林面積は町の総面積の66.8%を占めている。また、林家別に見ても経営面積が1~5haの小規模林家が85%を占めているのが特徴である。後継者不足や木材価格の低迷などの影響で林業経営を取り巻く情勢は厳しい状況にあり、今後は施業の集約化を主体とした利用間伐を進めていくことが重要な課題となっている。

【水産】若狭町には古くから残る常神半島を中心に5つの漁港があり、その内110件もの民宿で県外からの観光客を呼び込む活動を行っている。三方湖で捕れるコイやうなぎなどは特産物として観光客に人気を得ている。

宿泊施設・農林漁家民泊の概要

	農林漁家民宿	ホテル・旅館	公設の宿泊施設
軒数	1	4	2
最大宿泊可能人数	14	220	243
料金	6500円	6300円~	1420円~

おすすめ体験学習プログラム

稲刈り体験（所要時間 180 分・農業体験）

【期間】

8月下旬～9月下旬まで。

【内容】

無農薬で栽培した稲を昔ながらの手作業で刈り取る。刈り取った稲は、稲木にかけて天日干しにする。(はざかけ体験)

牛の餌やり、牛舎清掃体験（所要時間 120 分・動物・昆虫体験）

【期間】

通年

【内容】

古くから若狭町周辺で飼育されてきた若狭牛の餌やりや牛舎の清掃、仔牛の体重測定や受精卵回収の見学等を見学できる。

大敷網見学体験（所要時間 120 分・漁業体験）

【期間】

4月～11月まで。

【内容】

地元漁師の船に実際に乗り、大敷網(定置網)魚を見学する。船は早朝 4～5 時に出港する。

海藻おしばづくり体験（所要時間 120 分・クラフト体験）

【期間】

通年

【内容】

海で採集した海藻を使った、おしばづくりが体験できる。海藻は不思議な形と繊細な色をしており、おしばづくりに丁度良い。

梅ジュース、梅大福作り体験（所要時間 45 分・食の体験）

【期間】

通年

【内容】

若狭町の特産である福井梅を使用して、梅ジュースや梅大福づくりを体験する。梅干ができるまでの工程も見学できる。



受入時の安全対策

学校関係者向けガイドライン作成	受入地域内関係者のガイドライン作成	他安全対策資料用意
-	○	-

おすすめのモデルプラン

プラン名	農村と漁村、満喫プラン	実施時期	9月～10月まで
ねらい	児童が、様々な体験プログラムに参加することで若狭町の自然や農業、漁業等を体感し、活動への理解を深める。これらの体験を通して、児童は、規則正しい生活を過ごし、農林漁業や生活文化に触れると同時に、異世代である農林漁家の方々と心の深い交流ができるようにしている。		

日	時間帯	プログラム名	学習内容
1日目	午前	町内観光など	歓迎式及びオリエンテーション。アジをさばいて干物づくりを体験する 食事運搬などの手伝い、漁師との語り合いを行う
	午後	入村式、干物づくり体験	
	宿泊	民宿	
2日目	午前	定置網漁見学、漁業体験	早朝から漁師の船に乗り、定置網魚を見学。その後、養殖餌やり、遊覧、岸壁釣りなどをグループごとにローテーションして体験する。 シーカヤック、海水浴、いかだ遊びなどをグループごとにローテーションして体験する
	午後	散策、海遊び	
	宿泊	民宿	
3日目	午前	農業体験	食事運搬などの手伝いを行う。家族への手紙を書く。 かみなか農楽舎の体験畑で野菜収穫を体験する。収穫した野菜は調理する。 県海浜自然センターで海藻を使ったおしばづくりを体験する。
	午後	海の観察	
	宿泊	県立三方青年の家	
4日目	午前	歴史・文化体験	体験したことをまとめグループでまとめ発表 丸木舟乗り、勾玉作り、レザークラフトをグループ毎にローテーションして体験する。 アイスクリームやバウムクーヘンを作る。
	午後	お菓子作り	
	宿泊	県立三方青年の家	
5日目	午前	退村式	地元小学生や環境保護団体との交流を行う。 送別式、振り返り、アンケートなどを行う。
	午後	町内観光など	